

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771000171		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム天神1階		
所在地	福島県二本松市杉田町1丁目2-1		
自己評価作成日	平成29年7月10日	評価結果市町村受理日	平成29年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成29年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、地域資源を活用し、ボランティアの受け入れを行っている。地区の清掃活動への参加や地元の消防団との難訓練などとの繋がりを大切にしている。

2、明るく訪れやすいホームの雰囲気作りに職員全員で取り組んでいる。又、入居者様が安全・安心に暮らしていけるように社内外の研修に積極的に参加し、スキルアップや目標達成を目指しケアの向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人理念、運営方針、事業所理念が職員に周知徹底されており「笑顔」と「利用者に寄り添う心」を大切にし、事業所目標と職員個人目標を設け意識づけを行いながら理念に沿った支援に取り組んでいる。

2. 法人主催の研修や職場内外研修、資格取得支援を行いながら職員のスキルアップを図り、利用者・家族に満足(満足度調査実施)して頂けるサービスの提供に取り組んでいる。

3. 地区の行事や祭り、清掃活動に参加し、ボランティア・中学生体験学習・専門校学生実習を受け入れ、日常的に地域との交流を深めながら、地域との関わりを大切にした支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念に、地域の一員として利用者様と共に歩む事を明記している。毎年ホーム目標と個人目標を考え、達成に向けて努力している。	全職員で見直した事業所理念をフロアに掲示し、会議やミーティングで理念に沿った支援ができているか確認しながら共有し、実践につなげている。また、事業所目標と職員個人目標を設け意識づけを行い目標達成に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の日舞ボランティアの方々が、隔月に訪問して下さり、地域の方々と利用者様が共に日舞鑑賞をしたり、季節の行事にも参加して頂いている。避難訓練の際は、地域の消防団の協力を得ている。	地区の自治会に加入し、地区の例大祭や清掃活動(職員)に参加している。また、地域の舞踊団体や歌謡ボランティア、専門学校実習生、中学生の職場体験等を受け入れている。事業所の夏祭りに招待したり、散歩等の際に挨拶を交わすなど日常的にも交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターより認知症の対応についての講演依頼がある。地域の介護専門学校の実習生を受け入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、メンバーにより出された意見等で改善できるものは取り組み、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は定期的開催されている。会議では事業所の運営状況や取り組み、事故報告等を行い、再発防止に向けた意見やアドバイスを頂きながら、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、入居状況や事故の報告等を行い、連携を図っている。介護保険関連で不明な点があったり、困りごとがあれば相談に乗って頂いている。	市担当者とは、利用者の入居状況や各種報告及び利用者や家族等に係る支援の相談、助言を頂くなどしながら協力関係を築いている。また、地域包括支援センター職員が運営推進会議委員となり助言を頂くなど協力関係を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を受けた職員が、他の職員全員に伝達講習をしている。常に職員一体となり、『しない』ケアを実践し、利用者様の行動に寄りそう介護に力を入れている。	法人内研修や派遣研修、内部研修を実施し、身体拘束の具体的禁止行為やその及ぼす影響について理解を深め、玄関の施錠を含め全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ積極的に参加し、伝達講習を通して職員全員で虐待について学び、周知徹底を図っている。職員同士で注意し合える環境ができていて、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修に参加し、学んだ事を職員へ伝達講習を行っている。また、成年後見制度が必要な入居者様に関しては、市役所と連携を図りながら支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分に時間をとって頂き、納得して頂けるよう説明を行っている。また、解約時にはご家族様の意向に沿い、支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には利用者と一緒に意見、要望を聞いてケース会議で話し合いを行っている。また、運営推進会議に家族代表に参加して頂き、意見や要望を述べて頂いている。	日常生活の会話の中から利用者の意向や希望を汲み取り、意向に沿った支援に努めている。また、家族からは運営推進会議や面会時、行事の際に意見や要望を聞き、それらを運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行い、本社への意見など述べる機会を設けている。代表者は管理者面談を定期的実施、運営に関する意見や提案を聞いている。	管理者は日頃から職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、職員会議等で職員が意見や要望を出し合い、検討しながら運営に反映している。法人に職員の意見や提言を吸い上げる仕組みもあり連携が密に図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の有無や個々の力量に応じた給与体制となっており、資格取得が出来る様に社内研修等の整備を行っている。又、状況変化の把握に努めており、職員が向上心を持って働けるよう定期的に評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修に参加しやすいよう、調整を行ったり積極的に参加出来るように、研修案内を掲示し、研修の機会の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修や法人内の研修に積極的に参加している。安全や衛生に対する対策の意見交換の場も定期的に設けており、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、利用者様の不安な気持ちに寄り添い傾聴を重ね、安心して暮らせる様に良い関係作りに努めている。入居に不安を持たれるご家族様や利用者様に対しては、体験入所をされ、本人が納得され安心して入居に至る場合もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決まった段階からご家族様、ご本人様の意向を伺い、安心して入所して頂けるように話し合いを持っている。スタッフは事前に情報などを共有し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーや計画作成担当者が本人様、ご家族様との話し合いを進めていく段階で問題点を明らかにしながら、生活歴なども踏まえて検討し、利用者様に合った支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意なことや、やってみたい事などを職員と共に出来るように、常に利用者様の思いをくみ取るように心がけている。今までの経験から暮らしの中で教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様やご友人が訪ねて来やすい雰囲気を作るよう心がけている。又、ホームの行事など声をかけて、一緒に楽しい時間を過ごして頂くように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が馴染みの美容室に出かけたり、外出時には、車で行きたい場所などに職員と一緒に出掛けている。	家族の協力を得ながら、馴染みの理美容室や買い物、食事、ドライブ、墓参り、外泊などを通して関係の継続に努めている。また、利用者の希望により買い出しなどの外出や電話、年賀状などで馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が思いやりをもって心配しあったり、助け合ったりする姿が見受けられる。事業所が一つの家族の様に暮らしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族様が、訪ねて来られたり、入居されている利用者様のご家族様の相談を受けたり地域の事業者としての役割を担っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様の思いを日々言動から把握し、暮らし方の希望を取り入れている。入居後は、本人から多くの話を聞くことで利用者様本位の介護に努めている。	理念に掲げる利用者に寄り添う心を大切に するため、日頃の関わりの中で利用者との会 話や言動から、本人の意向を把握するよう努 めている。また、困難な場合は表情や行動、 仕草などから意向を汲み取り、本人本位に検 討し意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご本人様やご家族様から情報を集め、生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。入居後も定期的に利用者様の聴き取りを行いサービスの提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、職員がいつもと違うなどの洞察力を身に付け、その時々への対応が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、計画作成担当者を中心に担当者が聴き取りを行った事など、ケース会議で話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	入居時に家庭訪問を行い、利用者の生活状況を把握し、本人や家族の意向を確認しながら介護計画を作成している。また、毎月モニタリングを行い利用者の課題状況に応じたケース検討会を行い現状に即した介護計画を作成している。利用者の心身状態変化時には、その見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、出勤時に業務日誌などで必要な情報を得るようにしている。ケース記録は個別に日々の介護計画に沿った記録に努めている。ユニット別のケース会議は、ユニット全職員出席しており情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市のおむつ券を利用するなど、行政等の制度を積極的に活用するように取り組んでいる。又、家族の状況や本人の意思に合わせ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回地域のボランティアの方々の日本舞踊を披露して頂いている。地域の区長が毎月広報誌を届けてくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者様が、かかりつけ医があり、訪問診療を受けたり、家族様対応の際には、必要な情報を医師に伝えるべく、ご家族様との連携を密にしている。	本人や家族の希望により、これまでのかかりつけ医の受診支援を行っている。受診の際は、主治医へ受診者の健康状態や日常生活の状況を伝え、家族の協力のもと適切な医療を受けている。また、受診結果については、受診記録に記載し職員間で情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携の看護師が訪ねた際、相談やアドバイスを受け、利用者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、様子を見に行き、医療関係者から情報を得ている。又、ご家族様と一緒に医師や看護師と面談を行い、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の意向を書面にて確認し、重度化した場合は、再度書面にて確認している。意向に変化があった場合は柔軟に対応し、安心して過ごして頂けるよう医療関係者と連携を図っている。	利用契約時に重度化した場合の対応に係る指針内容を説明している。重度化した場合は、看取りに関する意向を再確認し、主治医や家族と話し合い、事業所のできることを十分に説明しながら、方針を共有し支援している。また、職員が看取り介護に関する研修を受講し、共通認識のもと支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月、本社主催の救命救急法を全職員が受講し、緊急時に対応できるように、研修会に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練は、4月は、消防署員、10月は地域の消防団と共に訓練を行っている。又、毎月ホーム内で独自の災害を想定した自主訓練を行っている。	消防署立合いのもと、地元消防団の協力を得ながら年2回の総合防災訓練をはじめ、毎月、自主訓練を実施しているが、地震・風水害を想定した訓練は行われていない。非常時の災害に備え、ヘルメット等の防災グッズの他、水や食料等も備蓄されている。	火災想定避難訓練だけでなく、今後は地震や風水害のリスクを想定した防災訓練を実施してほしい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の対応の中で、利用者様の尊厳を失う事のない対応が出来るように、言葉遣い・態度などを全職員が注意し合える関係が来ている。	2ヶ月に1回、接遇に関する法人主催の研修会の受講や事業所内の伝達研修を通じて、接遇スキルの向上を図っている。また、日常のケアにおいて、職員が互いに注意しあいながら、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援に努めている。利用者の情報が他に漏れないよう、管理者からの注意喚起、個人情報鍵付き書庫で保管する等、取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を起こす時は、利用者様の返事を待って、実行する。など自己決定が出来るように働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様本位を尊重して利用者様に合わせた日課を過ごして頂けるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事、外出の際は、その人らしいおしゃれが出来る様に声掛けや介助による支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の下準備や後片づけを一緒にしたり、食事を味わい会話をしながら、食事が楽しいものとなるように支援している。	法人の管理栄養士が栄養バランスを考慮し、1ヶ月分の基本献立を策定し、事業所側で利用者の要望に基づいてアレンジしている。また、自家菜園で栽培した野菜や家族や職員からの野菜・果物の差し入れも献立に反映させている。季節行事や利用者の誕生日に合わせた献立を作成し、利用者に食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりのペースに合わせて食事をして頂いている。職員は個々に応じた食事形態で支援しており、カロリーや水分不足にはならないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の口腔ケアの声掛けを必ず行い、清潔保持出来る様に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事、おやつの前に手洗いと共にさりげない誘導を行っている。夜間も定期的に声掛けを行い、気持ちよく休んで頂けるように支援している。	排泄チェック表を確認しながら利用者の排泄パターンを把握し、声掛けを行ったり、利用者の動作や仕草を観察しながら声掛け誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活チェック表に排泄の記録を行い、利用者様の状態を把握している。又、食事量・水分量も記録に残し、個々に合わせた食事も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ、ご本人様の希望や体調の確認をしながら週2回以上のペースで入浴出来る様に支援している。	入浴は、利用者の希望と体調を見計らいながら、週2回以上入浴できるよう支援している。また、利用者と一緒に歌を歌ったり、会話を楽しんだり、ゆず湯等で季節を感じてもらおう等、入浴を楽しむことができるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣・体調に合わせて支援を行っている。夜間眠れない時は、寄り添い、話をして安心できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合、申し送りや服薬箱にメモの記入を行っている。又、職員全体が、周知徹底して誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事を見つけ、日々の楽しみを持って頂いている。又、職員は感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって買い物などの支援を行い、又ご家族様にご協力を得ながら、外泊などが出来るように支援している。	介護度が高くなり外出する機会が減ってきているが、事業所周辺の散歩や近所のスーパーでの買い物等の支援をしている。また、家族の協力を得ながら、外食やドライブ等の機会も作っている。事業所の行事として花見や菊人形展、地域の敬老会等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意を得て、ご自分で金銭を所持し、好きな時に買い物ができ、支払い等が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様・知人の方に電話をかけたり、手紙を出すことができるように、支援している。また、ホームより定期的に近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、共有スペースには、湿度計を設置し温度、湿度の調整を行っている。又、季節の物を掲示し、季節感を味わうことが出来る様にしている。	共用空間には、掘りごたつが設置されている和室の他、居間にはソファが設置されている。日々の清掃や温度・湿度管理を適切に行い、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを置き、好きな時にテレビ、新聞など自由に見る事が出来るようにしている。入居者様は居室と共有スペースを自由に行き来し、生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時にご家族様に説明を行い、自分が以前使用してた家具や布団など持って来て頂き、出来るだけ、自宅に近い生活空間で過ごす事が出来るようご家族様に協力をお願いしている。	各々の居室には、記念写真、家具等、馴染みの物を持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。また、日々居室の掃除を行い、利用者が気持ちよく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の環境整備に常に気を配り危険の無い暮らしを支援している。その方に合った手摺り設置を行い安心して移動が出来る様に支援している。		